



第5週の発生動向 (2005/1/31~2005/2/6)

1. 感染性胃腸炎については、前週に比べ減少傾向にはありますが、依然として多い報告数となっています。食品の調理前後の手洗いの励行など、二次感染の拡大防止対策を更に徹底することが必要です。
2. 咽頭結膜熱については、むつ保健所管内において警報が出されたため、今後の動向に注意が必要です。

第5週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	定点数				
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		青森	弘前	八戸	五所川原	上十三
(72) インフルエンザ	14	1.08	30	1.88	110	7.86	56	8.00	32	3.56	29	4.83	271	4.17	149					
(60) 咽頭結膜熱			1	0.09			1	0.20			8	2.00	10	0.23	5					
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	1.75	36	3.27	12	1.33	1	0.20	9	1.50	3	0.75	75	1.74	16					
(62) 感染性胃腸炎	59	7.38	47	4.27	32	3.56	8	1.60	41	6.83	49	12.25	236	5.49	-26					
(63) 水痘	23	2.88	9	0.82	24	2.67	14	2.80	9	1.50	6	1.50	85	1.98	4					
(64) 手足口病	2	0.25	9	0.82	15	1.67			4	0.67	3	0.75	33	0.77	1					
(65) 伝染性紅斑			1	0.09							1	0.25	2	0.05	-4					
(66) 突発性発しん	3	0.38	7	0.64	5	0.56	1	0.20	7	1.17	4	1.00	27	0.63	6					
(67) 百日咳																				
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	1					
(69) ヘルパンギーナ	1	0.13											1	0.02	-3					
(70) 麻しん(成人を除く)																				
(71) 流行性耳下腺炎					16	1.78	5	1.00	1	0.17			22	0.51	8					
(73) 急性出血性結膜炎																				
(74) 流行性角結膜炎																				
合計																65	43	22	11	6

は警報です。 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前管内: 1人, 五所川原管内: 3人, 上十三管内: 1人 (17年計 11人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内: 5人 (17年計 14人)

病原体検出情報

1月30日から2月1日の間に、上十三、八戸保健所管内の一般家庭およびむつ保健所管内の飲食店において、下痢、嘔吐、発熱を主症状とした事例があり、発症者等の便からノロウイルス Genogroup (G) 及びG がそれぞれ5株ずつ検出されました。



クロイツフェルト・ヤコブ病

(Creutzfeldt-Jakob disease: CJD)

- 病原体はプリオン(異常プリオン蛋白)です。脳内に異常なプリオン蛋白(蛋白性感染粒子)が蓄積し、脳が海綿状(スポンジ状)となることを特徴とする疾患です。
- 本疾患の有病率は100万人に1人前後です。地域差、性差はありません。好発年齢は50~70歳代です。潜伏期間は2年から30年と長く、感染経路のほとんどが不明です。
- 本県では、平成11年から平成16年の間に4人(病型: 孤発性)の届出報告がありました。

代表的な病型には以下のようなCJDが知られています。

初期症状および経過

孤発性CJD: 痴呆、小脳症状、視覚異常。初老期に発症し急速に増悪。

家族性CJD: 症状は孤発性CJDとほぼ同様。プリオン蛋白遺伝子の変異によって症状、経過が異なる。

変異型CJD: 抑うつ、不安、無感動、引きこもり、妄想などの精神障害や感覚障害。若年者に多い。近年、英国において20歳代若年者の発症が報告されています。

その他のCJDにはゲルトスマン・ストロイスラー・シャインカー症候群(GSS)、致死性家族性不眠症(FFI)等があります。